

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成6年7月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第62巻 第4号

ISSN 0525-2997

vol.62 no.4

物性研究

1994 / 7

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB 5またはA 4を縦に使用。（印刷はB 5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4 cm。
 - 3) 1 ページに本文34行、1 行に全角文字で42字。
 - 4) 第1 ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1 行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体(□)、イタリック(⓪)、ゴシック(Ⓜ)、ギリシャ文字(ギ)、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集後記

今春から初めて編集委員になったが、まだ右も左も分からない。これまでも極低月報という京大理学部の一研究施設の季刊誌(?)の編集に携わっているのみで甚だ心許ないが自分なりに努力する所存である。

さて、蒸し暑い日が続き本格的な夏到来と言ったところだが、夏で思い当たることについて書いてみたい。

夏というと国際会議のシーズンである。今年もICM(磁性国際会議)やM²S(超伝導国際会議)などの大きな会議が目白押しとなっていて、研究者にとっては大変忙しいと同時に大変楽しい季節である。国際会議に参加する際に楽しみなことの一つは、開催地またはその近くの大学や研究所などを訪ねる機会ができることであろう。私も超伝導の国際会議に参加するためにヨーロッパに行く予定であるが、これまで共同研究などを通じて関係のあるウィーン工科大学に寄ることも楽しみにしている。ヨーロッパは伝統を重んじる気風と言われているので、ヨーロッパでの物性研究を、じっくりとはいかないが、見て来たいと思う。

また、夏というと物性若手夏の学校が思い浮かぶ。学生の頃、訳も分からず、アンダーソン局在、近藤効果、スピンの揺らぎ、ランダム磁場効果などなどの魅力的なタイトルのついた講義名につられて参加したもののさっぱり分からず、夜みんなでわいわいやるのが一番の楽しみであったことが思い出される。しかし、そのときにできた友人たちは、今でもつきあいが続いており、研究面でも欠くことのできない関係となっているケースが多い。夏の学校は、私にとって研究面で人の輪をつくるのには最高の場であったと思う。また、昼の部についても、分からないながらも強く引きつけられ、今でも自分の研究の中心的課題となっている話題が多かったと思う。今年も、多くの若い人たちが夏の学校に参加され、すばらしい講義・サブゼミにインスパイアされながら、研究者の輪を広げていかれることを希望して止まない。

(K.Y.)

物 性 研 究 第 62 卷第 4 号 (平成 6 年 7 月号) 1994 年 7 月 20 日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200 円		

編集後記

今春から初めて編集委員になったが、まだ右も左も分からない。これまでも極低月報という京大理学部の一研究施設の季刊誌(?)の編集に携わっているのみで甚だ心許ないが自分なりに努力する所存である。

さて、蒸し暑い日が続き本格的な夏到来と言ったところだが、夏で思い当たることについて書いてみたい。

夏というと国際会議のシーズンである。今年もICM(磁性国際会議)やM²S(超伝導国際会議)などの大きな会議が目白押しとなっていて、研究者にとっては大変忙しいと同時に大変楽しい季節である。国際会議に参加する際に楽しみなことの一つは、開催地またはその近くの大学や研究所などを訪ねる機会ができることであろう。私も超伝導の国際会議に参加するためにヨーロッパに行く予定であるが、これまで共同研究などを通じて関係のあるウィーン工科大学に寄ることも楽しみにしている。ヨーロッパは伝統を重んじる気風と言われているので、ヨーロッパでの物性研究を、じっくりとはいかないが、見て来たいと思う。

また、夏というと物性若手夏の学校が思い浮かぶ。学生の頃、訳も分からず、アンダーソン局在、近藤効果、スピンの揺らぎ、ランダム磁場効果などなどの魅力的なタイトルのついた講義名につられて参加したもののさっぱり分からず、夜みんなでわいわいやるのが一番の楽しみであったことが思い出される。しかし、そのときにできた友人たちは、今でもつきあいが続いており、研究面でも欠くことのできない関係となっているケースが多い。夏の学校は、私にとって研究面で人の輪をつくるのには最高の場であったと思う。また、昼の部についても、分からないながらも強く引きつけられ、今でも自分の研究の中心的課題となっている話題が多かったと思う。今年も、多くの若い人たちが夏の学校に参加され、すばらしい講義・サブゼミにインスパイアされながら、研究者の輪を広げていかれることを希望して止まない。

(K.Y.)

物 性 研 究 第 62 卷第 4 号 (平成 6 年 7 月号) 1994 年 7 月 20 日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200 円		

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類 (請求、見積、納品書) が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より 6 ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
電話 (075)722-3540, 753-7051
FAX (075)722-6339

物性研究 62-4 (7月号) 目次

○研究会報告	
「非平衡系の統計物理 —現状と展望」(追加)	485
○修士論文 (1993年度)	
古典力学的手法による原子・分子の探求.....山本 知幸.....	510
○修士論文題目 (1993年度)	574
○編集後記.....	590

物性研究 62-4 (7月号) 目次

○研究会報告	
「非平衡系の統計物理 —現状と展望」(追加)	485
○修士論文 (1993年度)	
古典力学的手法による原子・分子の探求.....山本 知幸.....	510
○修士論文題目 (1993年度)	574
○編集後記.....	590